

2022-23年度 ◆クラブ会長テーマ◆ 「八重山の未来のために行動しよう」



イマジンロータリー

2022-23年度 RI 会長テーマ

RI 会長: ジェニファーE. ショーン

地区ガバナー: 嶋村 文男

◇ ガバナー信条 ◇

“Take Action for Rotary Future”

“Reach Out for World Peace”

“ロータリーの未来のために行動しよう”

“世界の平和のために手を差しのべよう”

今月のロータリーレート 1\$¥140

## 島の水景 ~石垣島の水散策~

マジャンガ  
【真謝井戸】

島の原風景を色濃く残す白保集落。古くからの石垣や福木の並木が見られます。集落に残る真謝井戸は、1771年の明和の大津波により埋もれてしまいましたが、再掘され、住民の飲料水を供給する重要な役割を担ってきました。白保に残存する唯一のウリカー(降り井戸)です。



6月のプログラム 6/7(水)会員卓話 6/16(金)合同例会(6クラブ) 6/21(水)会員卓話 6/28(水)納会

ガバナー補佐: 仁開 一夫 会長: 大浜 勇人 副会長: 前原 博一

幹事: 松田 新一郎 副幹事: 今西 敦之

公共イメージ委員長: 山下 暢 SAA・出席委員長: 大本 綾子

例会日 水曜日 12:30~13:30  
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4  
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

例会場 アートホテル石垣島 (0980) 83-3311  
TEL/FAX (0980) 83-2917  
E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)

☆総会員数：53名 (名誉会員2名・出席免除会員2名)  
 ☆出席義務会員数：50名  
 ☆出席人数：30名 欠席人数：20名 出席率：60.00%  
 <<司会進行：大本綾子・玉城一吉>>  
 ☆ロータリーソング：えんどうの花 四つのテスト  
 ☆ソングリーダー：新川正人  
 ☆メイクアップ：仁開一夫 森田安高 南波正幸  
 大城文博 大田次男  
 ☆ピシター：加藤昌也(第2770地区鈴鹿RC)  
 水谷晃(第2770地区鈴鹿シティRC)

会長挨拶  
大浜 勇人



先々週、竹富小中学校の「指田文庫」に寄贈してまいりました。20年近く続いたこの事業を、末永く継続していけたらなという思いでございます。たくさんの子供たちも参加して頂いて、我々は素晴らしい事業をしているのだな、というのを実感して参りました。卓上に、赤福がございますが、鈴鹿RCの水谷社長に頂きました。同じJPAグループで、ホテルのオーナーでございます。鈴鹿の方で4棟ほど持っている大社長でございます。ぜひ、メイクアップさせて欲しいということで、依頼を受けまして、昨日は楽しく、一緒に食事をさせて頂きました。また、先週の金曜日には、宮古島の方に合同例会に行きまして参りました。今回は6名で参加させて頂いて、交流ができたことを喜んでおります。宮古島に訪れた際に、ロータリーの碑を見学させて頂きました。卓上に置いてあります用紙に、詳細が書かれていますので、ぜひご覧いただけたらと思います。今度、宮古島の地を踏む時には、皆さんと一緒に行けたらと思います。

明後日、世界大会に行きまして参ります。オーストラリアのメルボルンに行かせて頂いて、ロータリーの世界大会を満喫させて頂きたいと思っております。今日は、前泊町長に卓話をいただきます。宜しくお願い致します。

☆ 幹事報告・松田幹 新一郎 ☆

沖縄県赤十字血液センターより、献血車両支援活動の願いが来ております。昨年も協力させていただきました。日時は、6/4(日)9:00~16:00、場所はマックスバリュやいま店です。こちらは、お礼に卵を準備いたします。それを配布する支援活動でもありますので、多数のご参加をお願い致します。2022-23年度仁開一夫ガバナー補佐合同のご案内です。先月からご案内させて頂いております。6/16(金)に6クラブの合同例会を那覇の地において開催されます。15:30から登録開始、場所はホテルコレクティブ、登録料は6千円です。返信期限は6/5となっております。仁開ガバナー補佐の輩出クラブとして、私どもはホストクラブとなっておりますので、多数の皆さまのご参加をお願い致します。その翌日には、青少年フォーラムが開催されます。6/17(土)13:00開

場の13:30開会、場所は、琉球大学大会議棟215室です。登録料は2千円、返信期限は6/1です。皆さんで参加したいと思っておりますので、宜しくお願い致します。最後に、地区納め会、4つのF賞表彰式が東京の地において、6/27(火)に開催されます。場所は、ホテル椿山荘東京、登録料はお一人様、2万円です。参加希望の方は、事務局までお願いいたします。

☆ 新入会員の紹介 ☆

氏名：黒島 勝氏  
 会社名：日本トランスオーシャン航空(株)  
 役職：支社長  
 生年月日：1966年10月9日



前任の玉城力の後任として、今月付けで石垣の方に着任しております、黒島勝と言います。改めて、よろしくお願ひ致します。出身は、市内新川でございまして、高校卒業まで、石垣島で育っております。1966年生まれの56歳でございます。島を出て1991年に今のJTAに入社いたしまして、現在に至っております。実は、2016年の7月~2021年の3月まで、八重山の方に、今と同じように勤務してございまして、今こちらにいらっしゃる皆さんにも、多々お世話になりご指導いただきました。それから那覇に戻り、2年でまた石垣の方に赴任ということで、石垣から2年間、那覇に転勤していたと言った方が早いような状況になっておりますが、個人的には、また故郷で勤務ができるということで、大変嬉しく思っており、会社にも大変感謝しているところでございます。とは言え、ロータリーの皆さんの活動というのは、全然まだ未知の世界でございますので、皆さんのご指導ご鞭撻のもと、共に精一杯活動させていただければというふうに思っております。どうぞ、今後ともよろしくお願ひいたします。

☆ 名誉会員卓話：前泊 正人 氏 ☆  
(竹富町長)

☆テーマ：「これからの竹富町」~聴く力と決断力~☆

今日のテーマは、大先輩を前にして私が話すのもどうかと思いますが、私も竹富町の舵取り役として就任をして、1年が経ったところでございます。これから目指す、竹富町を少しお話をさせて頂ければと思っております。

簡単に、自己紹介をさせていただきます。私は、昭和52年生まれの45歳でございます。石垣で生まれ、親は西表島の祖納出身でございます。幼少期は、西表島の祖納で保育所まで過ごしました。そして、登野城小学校、石垣第二中学校を経て、野球で沖縄水産高校へ進学しました。3年の夏には、甲子園大会にも出場させて頂きました。1番ショート、キャプテンで行かせて頂いて、初戦が2回戦からだったのですが、すぐに負けてしまいました。それからプロ野球を目指し、大学は福岡の九州共立大学へ進学し、大学4年生の時には、神宮大会で日本一にもなりました。そこから、社会人野球チーム、千葉県の新日鉄、君津に入部をし、プロを目指し5年間ほどチームにお世話になりました。私は、腰の手術を2回ほどしまして、プロ解禁の社会人2年目の時に2回目の手

術をいたしました。また、翌年の1年はリハビリをしながら、プロを目指していたところでございます。しかし、27歳の時に、母親の体調もあり、私の腰の持病もあり、野球に区切りをつけて島へ戻ってきました。

そこから、竹富町役場の非常勤として入庁し、非常勤として3年間、そして平成20年に職員として採用になり、非常勤の3年を入れると行政経験は17年ほどでございます。その中で、3名の町長に使えて町政運営を担ってきたところでございます。そんな中、当初から私が思っていたことは、まず公務員になるつもりはサラサラなかったということであります。ずっとプロを目指していたなかでありましたけれども、今ここに田代総務課長もおりますが、ほとんどが先輩でございましたので、声をかけて頂いて、役場に入ったところでございます。そこで、人には出来ているんだから自分に出来ないことはない、私は根っからの負けず嫌いであります。

そこから、公務員生活をスタートいたしました。そのなかで、業務に対する姿勢というところに関しては、先輩方を見ながら、また竹富町という多島ある行政、行政の主となる役場は、行政区域外の石垣市にあるというところで、町民の皆さんには寄り添った、行政をしなければならないと、常々思っていたところでございます。また、この行政主体の町づくりではなくて、町民の皆様が何を求めているかという事を聞かなければならない。それを町政運営に活かしていく、そういう行政が望まれているんじゃないかというところは、職員時代から常々思っておりました。私が、その職員時代、役職もない一般の職員時代も、私が町長だったら、どういう町づくりをしたのか、どういう行政運営をしたいのか、また町民の皆さんとどう関わっていったのか、その事を常々思っておりました。

私は、その根拠になりますというか、高校2年生から3年生になる新チームの時でございますが、今は亡き、裁監督にご指導いただきました。新チームになった時に、新3年生になる同級生で、新3年生のキャプテンを決めなさいというところで、3年生全体で話し合った時に、まず沖縄水産高校のキャプテンの役割は、全体責任をキャプテンが負うというところなので、誰もキャプテンをやらない。そのなかで、3年生でミーティングをしている時に、1回、2回目の候補者では裁監督からダメ出しをされて、3回目に私が候補者の名前を出した時に、裁監督はOK!でしたので、引き続き、私がキャプテンをする事になりました。私がみんなに言った事は、俺は島から出て来て、絶対に甲子園に行きたい、その為には殴られてもいい、でもみんながキャプテンという気持ちで取り組まなければ、絶対に甲子園には行けない。沖縄水産と言えば、お山の大将が集まってきます。その地域のレギュラーメンバー、雄大な人が集まってくるなかで、本当に個性的な同級生ばかりでした。しかし、ここでしっかり同級生にお願いをして、責任は全部引き受ける、しかし全体的な考えは、みんながキャプテンという立場で、取り組んで行かなければ絶対に甲子園には行けない。その了承が頂ければ、私はキャプテンを引き受けもいいというところで、

全員OKでキャプテンとして取り組んでいきました。そんななか、その同級生が、その思いをしっかりと受け止めてくれて、取り組んだ結果、甲子園に行けたと思っております。これまで、1年生、2年生、一緒に過ごしてきた同級生であります。その事をキッカケに大分大きく意識も変わり、団結できたところでございます。私一人では、到底100人以上のチームを纏めるのは不可能だったと思います。しかし、全員の中でも、私は誰にも負けない思いで、野球に対して取り組んでいましたので、その意識を共有する事が出来て、とても良かったなというところでありました。

それから行政に入り、その気持ちは継続して持ち続けています。やはり、一人で成し遂げられることは、限られてくると思いますが、しかしチームとして、大きな力を発揮するためには、どうしたらいいかという思いを持ちながら、この野球の経験を活かして行政の一員としてやっておりました。これまで17年経過するなかで、様々な思いを持ちながら取り組んでいました。

前町長の2期目にあたるところで、出馬の依頼を受けまして、本当にいろいろと考えたところでございますが、2期目のタイミングは、お断りをさせて頂きました。今回の選挙に至った経緯は、皆さんご承知のところだと思いますけれども、失墜した竹富町の信頼を取り戻さなければならない、これからの行政の在り方は、これまでの在り方ではないという思いがありましたので、比較的、今回の要請に関しましては、私自身、早めに決断をする事ができました。しかし、最大の難関は、やはり妻でありました。女性は、現実をしっかりと見ていくというところはありますけれども、私の挑戦に最後は、首を縦に振ってくれましたが、相当な時間を要しました。私も今は、中学3年生の長男と、小学5年生の長女がいます。今回の出馬をいただいた時には、まだ小学生二人でしたので、妻が心配することもあったんですが、これから竹富町を変えていく、立て直していく、今やらなければならないという事を、一生懸命伝えて、選挙に出馬することができました。また、今回の選挙、ロータリーの会員でもあります、上勢頭保後援会長には多大なお力を頂いて、当選をさせて頂きました。選挙の話をしなすと、これまで若い世代、30代、40代、あまり竹富町において、選挙の時に前に出てこなかった若い皆さんが、私の後押しをしてくれたのが、結構大きかったと思います。各島、地域で若者の力が一緒になって、私と一緒に動いてくれて、想いを伝えてくれて、これからは自分たちがこの町を背負って創っていくんだと、そういう思いを強く感じました。これは、絶対に負ける分けにはいかない。私は、一役場の職員でありましたので、知っている町民の方々はいますが、圧倒的に最初に言われていたのは、知名度がない。相手候補は、郵便局に勤め、配達をしながら、様々な役職を持って、また竹富町の自民党の長でもありました。そういうところから、この知名度、若くて大丈夫か、政治の経験はないけど大丈夫か、様々なご意見もございました。しかし、私は経験がないからできない、若い

からできない、そういうところではないと思っておりましてので、そのところをカバーすべく、島々の若い皆さん、また上勢頭保会長を始め、選対本部の皆さんが、私の事をしっかりと後押しをしてきて、訴えてくれて、550票以上の差を付けて勝たせて頂くことができました。この票差というのは、これからの竹富町のあり方、政治のあり方もそうですが、行政として、町民に関わるあり方の期待の表れじゃないかと思っていたところでございます。そういった事を考えると、皆さんの思いが強くなる、私が選挙で訴えてきた事は、小さな声にも寄り添える、しっかりと拾っていく、そういう姿勢として、行政の主導ではなくて、本当の意味で、町民と共同の町づくりをしていかなければならない、そういうことを強く感じました。

今現在、就任をして、1年2ヶ月ほどになります。私は、町民に寄り添いながら、小さな声もしっかりと拾っていく、そのことを町政に活かす。これは私だけではなくて、就任当初から職員に対しても、申し述べているところでございます。意識が変わらなければ行動も変わらない、というところは絶対にあると思います。だからこそ、私がまず動いて見せる、職員にやれと言うだけでは動かない、私が動いて町民の声を聞いて、しっかりと活かしていきますと、そういう姿勢を4,300名の町民の皆さんが共有できるように、走っているところでございます。

私は、町政懇談会で、今年度から各島々を回ってスタートさせようというところ。「町長とゆんたく会」という形で、これまで8年ぐらい前からされていた、町政懇談会だったようです。その時には、各課長を連れて、対面式での懇談会だったと認識しているところでございますけれども、私はそういう向かい合って会合するような感じはあまり良くないなと思っていて、多くの課長を連れて並ぶと圧迫感があるんじゃないか、話せる事も話せないんじゃないかというところで、私は地元に行く時は、私と町政官と記録係の3名で回るようにしています。いくつかの地区を集めて大きいホールでやるのではなくて、竹富町には21の公民館があります。私は、21の公民館単位で回っております。また、座るのも丸座でイスを並べて、顔が見えるように、ざっくばらんに意見交換をしましょうと、勿論公民館要請で上がってくる事項もありますけれども、なかには優先度も低いから上げないでおこうね、という声もあるんですね。公民館要請が全てではない、その中で、町民の皆さんが、普段思っていることを知りたいなと思っていて、どんな小さな声も聞かせてくださいという思いで回っているところでございます。現在、6公民館が終わったところで、今日この後、会議が終わってから16時過ぎの船で西表島に渡ります。大富地区の公民館で「町長とのゆんたく会」をやってまいります。

私が訴えてきたこと、これからやらなければならないこと、多々あります。ご承知のように西表島が世界自然遺産に登録をされ、これから持続可能な観光をしていくためにも、責任ある観光のなかで、西表島は人数制限をしていく、年間33万人、1日1,200人、これから細かいところは決定してい

くところでありますが、竹富町のリーディング産業である観光業はしっかりと発展させなければならない、且つ持続可能な観光でなければならない、また一極集中の西表島だけの観光ではないと考えているところでございます。竹富町は、各島々それぞれ魅力があるところでございますので、その魅力を更に輝かせ、また新たなコンテンツを構築していくなど、均衡ある発展に持っていきたいという思いでございます。それをするのも、行政だけではなくて、町民の皆さんが望んでいるところ、その声に耳を傾けて寄り添っていけるのか、そこが問われているところだと思います。今、私が町政を担わせて頂いて、1年2ヶ月の間、いろんなお声を頂いています。また、動きが早くなったねとか、明るくなったねと、叱咤激励を頂きながら進めているところでございます。

小さな声でも拾いたいという思いから、就任当初、町長直行便というラインも作りました。これは私に直接来て、直接私が見ます。その事で、これまで役場に言っても変わらなかったよねとか、結局、途中で消えたよねとか、そういったことを無くしていかなければならない、そういったところを趣旨に「町長直行便」として、私が一番最初にラインを確認し、しっかりと関係課に指示をしていく、ちゃんと頂いたものに対して返信をしていく、そういったところで町民の皆さんとの温度差を埋めていく、そして共同の町づくりに繋げていく、その積み重ねが竹富町の信頼回復に繋がっていくものだと強く思っているところでございます。本当に、多くの皆さんからお声をいただいて、私もロータリーの名誉会員として、お招きを頂いているところでございます。また、皆さんと活動を共にしながら、八重山は一つ、というところで、竹富町、1町多島あるなかで、なかなか難しい行政運営を強いられるところもでございます。

本日、JTA支社長の黒島さんも会員になられて、また連携を取りながら、八重山の観光の進歩に向けて取り組んでいければと思っております。私自身、これだけは自身があるなというのは、言ったらやらなければならないし、思いは絶対にブレない自身はあります。1年2ヶ月走って来て、体力的にも精神的にも、まだ全然きつくはないです。慣れたことは、土日祝日がなくなり曜日の感覚がございません。でも島々へ回ると、町民の皆さんが笑顔になってくれる、それが本当に嬉しくて、各島々回っているところでございます。

竹富町は、町民の皆さんの足としては船がメインでございます。そのかなでも、一括交付金を活用しながら、船賃の低減を図っていくところもやっています。それ以外にも、ごみ処理の問題もそうですし、オーバーツーリズム、高齢者の介護の問題もそうですし、また子育てもしにくいというような声を頂いているところで、如何に子育て支援ができるのか、そういったところにも力を入れているところでございますけれども、もっと島々の経済を、しっかりと外貨を取り込んで、地域で回していく。この経済も確立していかなければならないと思っております。本当に、たくさん課題がございます。この課題を解決していかなければならないこと、多々ござ

いますが、今できること、しっかり取り組まなければならないこと、しっかりと見極めて判断していく。そんななか、らくさんの声を聞いたら、なかなか判断をしたり、決断をするのが、難しいのではないですか、と言われますが、私の仕事は、竹富町の明るい未来のために、しっかりと声を聞いて、なるべくタイミングで決断をする、これに尽きると思っております。

私は、1年目も全力で走ってはいません。しっかりと見極

め様々なご経験から、いろんな知見からアドバイスを頂いて、我々、竹富町をいい方向に舵を取っていければなど思っております。今回の例会で、お話をさせて頂く場を設けて頂きまして、感謝を申し上げますとともに、八重山はひとつ、皆さんで協力して良い方向に向かっていきましょう。本日は、ありがとうございました。

～ 例 会 風 景 ～



鈴鹿シティ RC 水谷様 鈴鹿 RC 加藤様  
メイクアップありがとうございました。



名誉会員の前泊町長、卓話ありがとうございました。

黒島勝会員 入会おめでとうございます。

～ 沖縄県赤十字血液センター 献血車両支援活動 6月4日(日) 於：マックスバリュやいまで～



本日のニコニコ: ☆大浜勇人氏:前泊町長、卓話ありがとうございました。

☆上勢頭保氏:本日、黒島 JTA 支社長の入会と、前泊町長の卓話に感謝を申し上げます。

☆前木繁孝氏:前泊町長、本日はありがとうございました。黒島支社長、心待ちにしていました。

☆黒島剛氏:前泊町長、卓話ありがとうございました。黒島勝さん、入会おめでとうございます。

☆今西敦之氏:前泊町長、本日はよろしくお願ひします。鈴鹿ロータリー水様、加藤様、ようこそおいで下さいました。赤福もち、ありがとうございます。☆山下暢氏:前泊町長、卓話ありがとうございました。黒島勝さん、おかえりなさい。

☆新垣精二氏:前泊町長、卓話ありがとうございました。黒島勝さん、宜しくお願ひします。

☆新川正人氏:前泊町長、卓話ありがとうございました。☆玉吉秀庸氏:黒島さん、ロータリーへようこそ、楽しんでいきましょう。

☆新里裕樹氏:黒島会員、入会おめでとうございます。宜しくお願ひします。前泊町長、卓話ありがとうございました。

☆西村剛志氏:前泊町長、本日はありがとうございました。黒島さん、入会おめでとうございます。

◆BOX ¥11,000 (累計 ¥355,000) ◆コイン ¥0 (累計 ¥22,839) 合計 ¥377,839